月刊 あなたにこの本を！ 平成21年4月号

大阪市立図書館　「あなたにこの本を！」選定委員会

大阪市立図書館が購入した新しい本の中から、図書館員のおすすめの本を紹介します。

・・・字が大きめ　・・・中高生にも　・・・図・写真が多い

※価格のあとの（　）内の番号は、大阪市立図書館書誌 ID です。

建築バカボンド

岡村泰之　著
理論社　1470 円　(0011764623)

ジャンル ： 生き方・考え方に学ぶ

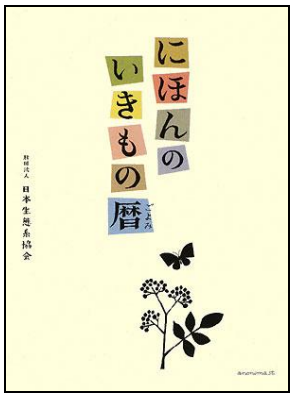
「バカボンのパパ」を敬愛する建築家の著者は、建て主の本当の望みを探り出し、玄関はないがリビングは広い家など、自由な設計をしてきた。そんな彼が、建て主ら家族への聞き取りに始まり、設計から着工に至る自身の仕事をやさしく紹介。塀に見る他者との関係や家に関する法等、10 の視点から思ったことを率直に語る。マンガや写真を使ったポップな構成にも自由な精神が感じられる。具体的な工事を説明した部分もあり、家作りについてもよくわかる。〔527〕

わたしたち里親家族！
ーあなたに会えてよかったー

東京養育家庭の会みどり支部　監修
坂本洋子　編集
明石書店　1470 円　(0011779360)

ジャンル ： 子どもの成長のために

様々な事情のために、親と離れて暮らさざるを得ない子どもがいる。その子らを家庭に迎え、育てるのが「里親」だ。本書では里親たちが深い愛情と、時には忍耐を持って接し、「家族の絆」を作り上げていく過程がいきいきと語られる。彼らが真剣かつ誠実に子どもと向きあう姿は、どの家庭の子育てにも参考になる。里親制度や関連用語も丁寧に解説。行政や医療、里親家庭のメンバーなど、周囲の人たちが寄せたコラムも収録し、さらに理解を深められる。〔369.43〕



にほんのいきもの暦

日本生態系協会　著
アノニマ・スタジオ（発行）
ＫＴＣ中央出版（発売）
1890 円　(0011781592)

ジャンル ： 暮らしにうるおいを

太陰太陽暦で、正しい季節を知るための目安として用いられた二十四節気。本書は、啓蟄(けいちつ)や芒種(ぼうしゅ)など、節気の名称の由来や、それぞれの時期を彩る「にほんのいきもの」たちの姿を豊富な写真とともに紹介する。古来より、日本人が親しんできた「やまざくら」や「うぐいす」など、様々な花や虫、鳥たちの美しい写真はどれも魅力的で、コンパクトな図鑑としても十分に楽しめる。四季の移ろいを感じながら野山を散策したくなる。〔468.5〕

生活保護が危ない ー「最後のセーフティーネット」はいまー

産経新聞大阪社会部 著
ジャンル ： 現代社会を見つめる
産経新聞出版(発行) 扶桑社(発売) 798 円 (0011712315)

西成区のあいりん地区では、日雇い労働者の多くが生活保護の受給者へと変わった。近い将来各地で似た現象が起こると考えた記者たちは、1年間の連載記事で関西を中心に生活保護を追った。受給の状況と人々の思いが浮き彫りになり、問題の多様さと複雑さに圧倒される。不正受給を絶とうとする役所側と、その一方で必要な援助が受けられない実態も取り上げる。病気や介護が失業に直結するいま、他人事ではない貧困と援助の現状が明らかにされる。〔369.2〕

日本最初のプラモデル ー未知の開発に挑んだ男たちー

竹縄 昌 著
ジャンル ： 生き方・考え方に学ぶ
ｱｽｷｰ・ﾒﾃﾞｨｱﾜｰｸｽ(発行) 角川ｸﾞﾙｰﾌﾟﾊﾟﾌﾞﾘｯｼﾝｸﾞ (発売) 780円 (0011773025)

昭和33年、国産初のプラモデルが発売された。模型業界を取材してきた著者が、発売から50年を経て、その最初の一歩に携わった企業と男たちを追ったのが本書だ。未知のものだったプラモデルを扱う経営者、職人、営業マンたちの奮闘ぶりを描き出していく。東京タワーのオープンと時期を同じくする時代背景もよく伝えている。手探りのなか前途を切り開いた彼らからは、戦後を復興した逞(たくま)しさが感じ取れる。巻末に関連年表あり。〔507.9〕

福沢諭吉背広のすすめ

出石尚三 著
ジャンル ： 歴史・文化に親しむ
文藝春秋 787 円 (0011777205)

服飾評論家でありながら、「服屋」と自称する著者。彼は十数年前、自分の商売道具である「背広」の言葉の由来に、ひょんなことから興味を持った。その後明治期の資料を少しずつひもとき、とうとうその鍵を握るのが福沢諭吉ではないか、という仮説にいたる。本書では、その諭吉と「背広」の関係を、名探偵さながらの軽やかさで解き明かしていく。背広のみならず、文明開化とともに花開いた日本洋服文化の黎明(れいめい)期をいきいきと描き出している。〔383.1〕

時代劇は死なず! ー京都太秦の「職人」たちー

春日太一 著
ジャンル ： 知識・教養を深める
集英社 756円 (0011776848)

1960年代から現在まで時代劇を支えた美術スタッフや脚本家など裏方たちの活躍を、映画からテレビへの過渡期を中心にまとめたのが本書だ。先輩の技術を盗んで育った若手技術者たち、ろうそく1本分の陰影にこだわった撮影者など、彼らの仕事ぶりを詳細に記す。人気時代劇「座頭市」の製作秘話や、放映当時の反響にもふれ、時代劇をめぐるテレビ史としても楽しめる。時代劇を愛する著者が、当時のスタッフに熱心な取材をおこなった意欲作。〔778.7〕

落語家はなぜ噺を忘れないのか

柳家花緑 著
ジャンル ： 生き方・考え方に学ぶ
角川SSコミュニケーションズ 840円 (0011753886)

古典落語は台本のない「伝承芸」だ。著者は師匠の噺(はなし)を一言一句違えずノートに書き起こし、口調まで真似することから始めたという。本書は、落語家が一つのネタを高座にかけるまでの過程や、高座の上での心情などを、著者の体験を中心に具体的に紹介。また、祖父で人間国宝の五代目柳家小さん直伝の「笠碁(かさご)」を自分のネタに変える際の、苦労や逡(しゅん)巡の思いも明かす。落語の奥深さとそれに真剣に向き合う著者の情熱が伝わってくる。〔779〕